

CASBEE-建築(新築)2016年版
 (仮称)八幡市温泉施設新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質						3.1	
Q1 室内環境			0.40			3.0			
1 音環境		3.0	0.15			3.0			
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40						
1.2 遮音		3.0	0.40						
1 開口部遮音性能		3.0	0.96						
2 界壁遮音性能		3.0	0.04						
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音		3.0	0.20						
2 温熱環境		2.8	0.35			2.8			
2.1 室温制御		2.7	0.50						
1 室温		3.0	0.39						
2 外皮性能		2.0	0.24						
3 ゾーン別制御性		3.0	0.37						
2.2 湿度制御		3.0	0.20						
2.3 空調方式		3.0	0.30						
3 光・視環境		3.0	0.25			3.0			
3.1 昼光利用		3.0	0.37						
1 昼光率		3.0	0.54						
2 方位別開口									
3 昼光利用設備		3.0	0.46						
3.2 グレア対策									
1 昼光制御									
3.3 照度		3.0	0.18						
3.4 照明制御		3.0	0.45						
4 空気質環境		3.5	0.25			3.5			
4.1 発生源対策		4.0	0.50						
1 化学汚染物質	シックハウス規制対象の材料を使用した。	4.0	1.00						
4.2 換気		3.0	0.30						
1 換気量		3.0	0.35						
2 自然換気性能		3.0	0.30						
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.35						
4.3 運用管理		3.0	0.20						
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50						
2 喫煙の制御		3.0	0.50						
Q2 ガンビクス性能			0.30			2.9			
1 機能性		3.4	0.40			3.4			
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40						
1 広さ・収納性									
2 高度情報通信設備対応									
3 バリアフリー計画		3.0	1.00						
1.2 心理性・快適性		3.9	0.30						
1 広さ感・景観		2.0	0.05						
2 リフレッシュスペース									
3 内装計画	施設にふさわしい雰囲気を出した。	4.0	0.95						
1.3 維持管理		3.5	0.30						
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い仕上げ方法を採用した。	4.0	0.50						
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50						
2 耐用性・信頼性		3.0	0.30			3.0			
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50						
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80						
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20						
2.2 部品・部材の耐用年数		2.9	0.30						
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.10						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20						
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20						
2.4 信頼性		3.2	0.20						
1 空調・換気設備		3.0	0.20						
2 給排水・衛生設備	衛生面に配慮した。	4.1	0.20						
3 電気設備		3.0	0.20						
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20						
5 通信・情報設備		3.0	0.20						

3 対応性・更新性			2.3	0.30		-	2.3
3.1 空間のゆとり			2.1	0.30		-	
1	階高のゆとり	1階階高:5,000 2階階高:4,200	5.0	0.06		-	
2	空間の形状・自由さ		2.0	0.94		-	
3.2 荷重のゆとり			2.0	0.30		-	
3.3 設備の更新性			2.8	0.40		-	
1	空調配管の更新性		2.0	0.20		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			3.0	0.30		-	3.5
1 生物環境の保全と創出			4.0	0.40		-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		まちなみと調和した木を採用した。	3.5	0.30		-	3.5
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.50		-	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		地域に開放されるように計画した。	3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上							
LR 建築物の環境負荷低減性							3.1
LR1 エネルギー			5.0	0.40		-	3.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.49	4.0	0.10		-	4.0
2 自然エネルギー利用		太陽光発電を導入した。	2.4	0.50		-	2.4
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.92	3.0	0.20		-	3.0
4 効率的運用			3.0	1.00		-	
集合住宅以外の評価			3.0	0.50		-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制						
集合住宅の評価							
4.1	モニタリング						
4.2	運用管理体制						
LR2 資源・マテリアル			3.0	0.30		-	3.1
1 水資源保護			3.0	0.40		-	3.0
1.1 節水			3.0	0.60		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.70		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.30		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.2	0.60		-	3.2
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.10		-	
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.20		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			4.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		陶磁器質タイル、集成材、合板、ビニル系床材を壁等各所に使用。	3.0	0.10		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.20		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.2	0.20		-	3.2
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.30		-	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.3	0.70		-	
3.2 フロン・ハロンの回避		フロン、ハロンを不使用とした。	4.0	0.33		-	
1	消火剤		3.0	0.33		-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33		-	
3	冷媒		3.0	0.33		-	
LR3 敷地外環境			3.2	0.33		-	3.2
1 地球温暖化への配慮		植栽を可能な限り配置した。	3.0	0.25		-	3.0
2 地域環境への配慮			3.0	0.50		-	
2.1 大気汚染防止			3.2	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.25		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25		-	
2	汚水処理負荷抑制		4.0	0.25		-	
3	交通負荷抑制	適切な駐車スペースの確保。	3.0	0.25		-	
4	廃棄物処理負荷抑制						
3 周辺環境への配慮			3.0	0.40		-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.33		-	
1	騒音		3.0	0.33		-	
2	振動		3.0	0.33		-	
3	悪臭		3.0	0.33		-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.70		-	
1	風害の抑制		3.0	0.30		-	
2	砂塵の抑制		3.0	0.20		-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.70		-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.30		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.30		-	
2	長光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	